別紙様式1

# 令和6年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　学校名　三原市立沼北小学校　校番（ 11 ）

| a 学校教育目標 | かしこく やさしく　たくましく | b 経営理念<br>ミッション・ビジョン | 【ミッション】（自校の使命）　児童の地域への愛着を育て，生きる力の基礎を育成する<br>【ビジョン】（自校の将来像）　児童が自分に自信を持ち，地域・保護者から信頼される学校 |
|---|---|---|---|

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | 改善方策 | 学校関係者評価 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 | g<br>目標値 | 10月<br>h<br>達成値 | 2月<br>h<br>達成値 | i<br>達成度 | j<br>評価 | k<br>結果と課題の分析 | n<br>改善方策 | l 評価<br>イ | ロ | ハ | m<br>コメント |
| 確かな学力の育成 | 「見方・考え方」を働かせ，探求的に学習する力を育てる | ○基礎的・基本的な知識・技能の定着 | ○NRT・全国学テの課題を基にした授業改善<br>○低学力層（50点以下）をターゲットにした学力補充・帯タイムの充実と情報共有 | ○単元テスト（国・算・理）<br>①正答率 全国平均以上<br>②50%以下0人<br>○国語科期末テスト<br>③初見問題<br>正答率 全国平均以上 | ①100%<br>②0人100%<br>③100% | ①82.7%<br>②89.4%<br>③50% | ①81.1%<br>②91.7%<br>③83% | 87% | B | ① NRT・全国学テの分析による課題をもとに、児童が基礎的・基本的な知識・技能を習得することのできる授業、アシストシートを活用した取組を行った。また、担任以外の教職員も加わって学力補充にあたった。その結果、正答率全国平均以上の児童の割合が81.1%であった。<br>② 低学力層（50点以下）の児童を対象にした学力補充の個別指導を行うとともに、全校の実態・取組の進捗状況等について情報共有を行った。単元末テスト正答率50%以上を達成できた割合は1学期より33%上昇した。<br>③「見方・考え方」を働かせて読解する授業、アシストシート等を使って課題に沿った取組を行い、その力を活用する初見問題のテストを行った結果、全学年が全国平均を上回った。 | ① 引き続き帯タイムにおいてアシストシートを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。また、担任以外の教職員も加わっての学力補充を継続していく。<br>② 単元末テスト実施前に十分に活用・演習の時間を設ける。低学力層の児童の学力向上のため、個に合わせた家庭学習の設定、学力補充をすることで、個別最適な学びを実現させる。<br>③ 国語科・算数科に関して、作成した学力補充に関する校内スケジュール表に沿って、担任・管理職・主任等、一体となって取組を進める。 | ○ | | | ○学習への意欲の継続が困難な児童への配慮を感じる。学力の向上の成果につながっている。<br>○R80の取組の積み上げが思考力・表現力を高めている。<br>○確かな学力の育成につながる努力がよく見える。<br>○今後、学習・運動・観察力・行動力に興味がわくような授業が更に求められる。<br>○児童への、個別の学習の取組が効果的である。<br>○R80で文章をまとめることが、話し方、考え方をまとめることにもつながる。R80は、今後も必要である。<br>○授業態度が良い。<br>○教師が一丸となって、指導に取り組んでいる。<br>○ICTを使う授業は、とても効果的だが、モラルもしっかり教えてほしい。<br>○小中連携を進めていきたい。 |
| | | ○主体的・協働的な学びによる深い学びの実現 | ○「探究的・協働的で深い学び」を導く「問い」を追求し，「見方・考え方」を働かせる授業改善を進める。<br>○授業をファシリテートする力を高め，思考につながるICT端末を効果的に活用し，「深い学び」や「個別最適な学び」を促す授業つくりを進める。 | ①R80においてめあてに沿った記述をする児童の割合<br>②児童アンケート（集団アンケート『知』の項目） | ①70%以上<br>②肯定的評価88ポイント以上 | ①73%<br>②95.1% | ①78.8%<br>②92.5% | 109% | A | ① 2学期も見方・考え方を明確にした授業、問いを吟味し児童の思考が流れる授業を意識して全員が研究授業を行った。授業後の協議の中で、具体的なファシリテートの姿、有効な発問等についてふり返り、目指す授業のイメージを共有して取り組んでいる。めあてに沿った振り返りの記述ができる児童は78.8%で5.8%増加した。<br>② 2学期末の児童アンケートでは、項目「みんながいろいろな意見を発表し合いながら学習を進めていると思う。」では100%、「課題を見つけ解決していく学習がおもしろいと思う。」では85.1%の児童が肯定的な自己評価をした。「課題を見つけ解決していく学習がおもしろいと思う。」が5.4%減少した。 | ① 児童の思考が流れる授業を展開するための教材研究に励み、児童と働かせたい見方・考え方を共有し授業実践する。また、振り返りの書き方の指導を継続していく。<br>② 研究会を通しての学び、国語科の課題克服に向けた講師を招いての理論研修・示範授業を通しての学びを生かし実践していく。<br>③今後も複式学級継続が予定されるため、算数科の複式学級授業研究を通して誰もが複式担任ができる力量を上げていく。 | ○ | | | |
| 豊かな心の育成 | 自らに自信をもち，積極的にチャレンジする気持ち，また他者と関わり合いながら，共に伸びようとする意欲を高める | ○自分のよさに気づき新たな目標に向かう児童，他者と関わり合いながら共に伸びる児童の育成 | ○挨拶を核にした「沼北5」の徹底を図り，「自信（チャレンジする心）」と「かかわり合う力」を更に高める取組を進める。<br>○様々な活動や行事に目標を持たせ、達成感を味合わせるとともに、「ほかほかの木」の取組を一層進める。 | ①挨拶についての児童アンケート肯定的評価の割合<br>②地域の方への挨拶についてのアンケート肯定的評価の割合<br>③「ほかほかの木」の取組において児童が自分のことや友達について書く | ①90%<br>②90%<br>③月に2枚以上90% | ①92.4%<br>②96.3%<br>③88.2% | ①90.7%<br>②88.9%<br>③92.1% | 101% | A | ①昨年度に引き続き、児童同士、教師からの評価、地域の方からのアンケートを行い2学期末に表彰を行った。評価の高い6名をあいさつ名人とし、意欲を持たせるようにした。また、3学期には給食時間に児童会が、2学期に行った挨拶アンケートのコメント放送を、保健給食委員会が挨拶名人へのインタビュー放送を行った。（児童アンケート肯定的評価88.9%）<br>②月ごとにほかほかの木のテーマを決めることで、自分のことや友達のことを書きやすくした。また、ほかほかの木でも目標や行事が終わったあとの頑張ったことなども書かせることで達成感を味わわせることができ、前期よりも達成率が3%上がった。 | ①2月に2学期同様のアンケートを行い、朝会で表彰を行う。表彰を通して、友達のよいところに気づいたり、気持ちのよい挨拶の姿を意識したりすることができるようにする。<br>②今後も、児童に還元し「自信」と「かかわり合う力」を高めていくために、児童が自分事として書きやすいよう行事などと関連付けたテーマを設定する。また、活動や行事に関わる目標を書いたり、頑張ったこと等、振り返りを書くことで達成感を味わわせるようにする。 | ○ | | | ○以前以上に自然なあいさつができている。<br>○今後もゲストティーチャーを活用し、専門的に学習をさせるとよい。<br>○自分の良さに気づき新たな目標をもち、進めるようになって欲しい。<br>○ゲストティーチャーによる授業は効果的。<br>○掲示物（ほかほかの木・あいさつ名人・健康）についての掲示物から学校が何をしようとしているかよく分かる。<br>○よく挨拶ができている。引き続き取組をお願いしたい。<br>○授業（運動・生活・総合）などで地域の方と触れ合うことが、児童の成長を促していくので、今後も一体化して児童の育成に努めたい。<br>○いつも学校が落ち着いている。 |
| | | ○地域の文化や伝統に誇りをもち，感謝する心の育成 | ○地域の文化や伝統に誇りをもち，感謝する心の育成 | ①地域連携・地域ゲストティーチャーを導入し、学んだことや感謝の気持ちを地域に還元したり伝えたりする。<br>②地域のことをよりよく知り、愛着を深める児童の割合 | ①年3回以上<br>前期50%<br>後期100%<br>②90%以上 | ①66%<br>②93.5% | ①100%<br>②98.2% | 109% | A | ①1学期のゲストティーチャー招聘は目標値に対して33.3%の達成だったが、それぞれの学年でゲストティーチャー招聘を計画し実施することができたので、地域とともに児童を育てることができている。また、安全パトロールや持久走大会や避難訓練など学校行事にも地域の方のお力をお借りして児童の安全にも協力をいただいている。地域のことが好きで地域に感謝の心を持つことができる児童を引き続き育てていく。<br>②「地域のことが好き」「地域のことを前よりも知っている」というアンケートでは98.2%の児童が肯定的な評価をしており、地域の方との関わりが地域への愛情につながっている。また、前期よりも約5%アップしており、成果も出ている。<br>○体育参観日後に校区民スポーツ交流会を通して、地域に支えられていることを実感できた。 | ①②計画的にゲストティーチャーを招聘し地域とかかわり合うことで、地域の文化や伝統に誇りをもち、感謝する心を育てる。（年間3回以上達成）<br>①ゲストティーチャーの取組を一覧にすることで、担任が変わっても地域との関わりが継続して取り組めるような体制をつくっていく。具体的には、エクセルのデータで各学年の取組を記入し、データを取りためていくようにしていく。 | ○ | | | |
| 健やかな体の育成 | 運動に親しみ，健康の保持増進に努める主体的な態度を養う | ○運動に親しみ，体力を高めようとする態度の育成 | ○運動の楽しさを知り，自ら進んで運動に親しむ児童を育成する取組を継続する。特に「走力」を高める。 | ①単元に合わせた「ACP」実施率（水泳・体育参観日時期を除く）<br>②50m走の記録がアップした児童（上半期は前年度との比較、下半期は上半期との比較）<br>③児童アンケート「運動することが好き」肯定的評価の割合 | ①90%以上<br>②85%以上<br>③85%以上 | ①97.2%<br>②77.1%<br>③85.0% | ①98.1%<br>②69.8%<br>③83.4% | 96% | B | ①楽しく運動に取り組むことができるように、単元に応じた「ACP」を実施している。運動の取り掛かりとしてACPを導入することで、児童の「運動が好き」という意識が育っており、80%以上の児童が肯定的な回答をしている。しかし、目標の85%には至らなかった。<br>②50m走の記録は、朝のランニングなどの取り組みにより前期と比べ、69.8%の児童がアップする成果が出ている。しかし、目標の100%には至らなかった。 | ○運動の取り掛かりとしてACPを導入することで、児童の「運動が好き」という意識が育っており引き続き楽しく体を動かす活動を通して、「運動が好き」と思える児童を増やしていく。また、朝ランの走った周回数分の色塗りなど努力と成果の積み上げが見える化することで、運動することによって得られる達成感や気持ちよさなどを感じることができるようにしていく。<br>○来年度も児童の気候や体調に応じて計画的に体力の向上に取り組む。 | ○ | | | ○準備体操など、どこの筋肉を伸ばしていくか、考えさせながら指導するとよい。<br>○元気が一番です。体力が付くように引き続きお願いしたい。<br>○大谷グローブの言われを子どもたちに伝え、挑戦する心を育ててほしい。<br>○ACPなど楽しみながら、運動ができていて、とても良い。 |
| | | ○自らの健康を保持・増進しようとする態度の育成 | ○健やかな体部を中心にして健康(生活習慣等)に関する日常生活の中での恒常的な取組を推進し，生活習慣アンケートや生活ふり返り週間を実施する。<br>○西部共同調理場や学校栄養士と連携し健康を保持増進しようとする態度を育てる。 | ①毎日2回以上歯磨きをしている児童<br>②生活ふり返り週間中に、目標を児童自ら決定し、達成することができる児童の割合<br>③自分の決めた量の給食を残さず食べている児童の割合 | ①90%<br>②85%以上<br>③90%以上 | ①90.4%<br>②70%<br>③90.9% | ①96.4%<br>②86.5%<br>③96.3% | 106% | A | ○「生活ふりかえりカード・アンケート」で、児童の生活習慣の実態調査を実施し、保護者と連携しながら児童への声掛けや生活習慣に関する保健指導を行った。また、歯みがきについては、学校歯科医と連携し、歯みがき指導を実施したり、歯みがき週間を実施したりして、歯みがきに対する意識を高めた。しかし、1日1回しか歯みがきをしていない児童の歯みがきへの意識が低いため引き続き指導や啓発等行っていく。<br>○西部共同調理場の学校栄養教諭と連携し、食育の指導を実施した。また、食べる量を自己申告することで、自分で決めた量を食べることができている。 | ○健康(生活習慣等)に関する日常生活の中での恒常的な取組を推進し、生活習慣アンケートや生活ふり返り週間を実施するとともに、保健指導に生活習慣も関連付けて指導を行う。<br>○アウトメディア週間を取り入れ、生活習慣を意識させる指導を行う。<br>○西部共同調理場の学校栄養教諭や学校歯科医と連携し、食育指導や歯科教育を実施する。また、指導されたことを保護者へも還元し、啓発を行う。 | ○ | | | |
| 信頼される学校 | 家庭・地域との連携を大切にし，安心・安全な学校，信頼される学校を想像する | ○地域と学校の連携・協働，そして地域の力を活用した学びの推進 | ○地域・保護者との連携を深め、協力体制を構築する。<br>○児童の成長や教育活動の様子を積極的に地域・保護者に伝え、教育活動への理解を得る。 | ①学校評議員・関係者評価委員アンケート：「よい学校にしようと頑張っている」、「地域を愛する子どもを育成しようとしている」、「地域と一体となった教育活動を進めている」<br>②保護者アンケート「学校の様子が学校・学級通信やHPによってよく分かる。」肯定的評価の割合 | ①100%<br>②92%以上 | ①100%<br>②96.2% | ①99.1%<br>②100% | 104% | A | ①学校評議員・学校関係者評価委員・地域の保育所長に参観日や各種行事等への参観をお願いしたり、ゲストティーチャーとして児童に関わっていただいた。学校・教職員・児童の様子を積極的に見ていただいた。<br>②保護者アンケート「学校の様子が学校・学級通信やトピックスによってよく分かる。」は100%となった。引き続き旬な時期に学校の状況や児童の様子について知らせ、児童の様子がよくわかるお便りを配信していく。 | ①児童の実態や課題を明確にし、保護者・地域と共に児童を育成するという思いを持ち、意見を真摯に受け止め課題に向けた教育活動を保護者・地域と一体化して進める。<br>②授業内容・各学年の細かな行事・連絡事項については、「すぐーる」を活用し、学校だより以外の内容を月2回のペースで引き続き定期的にトピックスとして発行し、児童の成長や教育活動の様子を配信する。 | ○ | | | ○子どもたちの学校愛が感じられる。<br>○教職員全体でいろいろなことに良く取り組まれている。<br>○地域の文化活動・防災訓練など地域と一体となって、取組んでいる。その成果が児童の生活に生かされている。<br>○良いところは認め、力を伸ばしてほしい。<br>○地域からの声をしっかりと受け入れてもらえている。<br>○限られた時間の中で、優先順位をつけ仕事に取組み、元気で頑張ってください。<br>○取組が進んでいると感じる。好事例を連携したい。 |
| | | ○業務改善を進め，協働して課題解決に向かう教職員集団の確立 | ○職員減の中、教職員の協働体制を更に確立するとともに、教頭を中心に業務改善を進め，「限られた時間の有効活用」を意識した，柔軟な働き方改革を充実させ、信頼される学校を創造する。 | ○職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間 | 平均45時間以内100% | 43% | 100% | 100% | A | ○下半期は、時間外勤務時間は45時間を下回っている。教壇に元気な姿で立つことを意識し、仕事の優先順位などを意識しながら教師が取り組んだ。（100%達成）<br>○冬季休業中等、計画的に研修を組み、自己研修や授業準備の時間の確保を行った。<br>○地域の方の協力を得ながら、総合的な学習の時間や生活などを中心に専門的な指導をしていただいたり作業を手伝っていただいたりして、教職員だけで取り組む時間が軽減できた。 | ○引き続き、短縮授業や計画的な研修により、教職員の教材研究や事務処理の時間を確保する必要がある。<br>○教職員の負担軽減が可能な業務を検討し、職員の協力体制やICTを活用することで業務の軽減を図る。<br>○月の途中に各自の残業時間について伝え、仕事の優先順位をつけて働けるよう意識づける。<br>○地域保護者と協力しながら、協働的な取組ができるように進めていく。 | ○ | | | |

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。